



# シビルサポートネットワークニュース

NPO法人シビルサポートネットワーク

2017年 10月 31日

2017年秋季号

## 本号の内容

- **秋に語る**  
・次世代へ、一足  
飛びに学生に託そ  
うではないか
- **事業報告**  
・シビル NPO 連  
携プラットフォーム  
の活動報告  
「建設系 NPO の中  
間支援組織は、い  
ま・・・」
- **活動報告**  
・第 23 回 CSN サロ  
ン報告  
「補強土壁の多目  
的利用」
- **トピックス**  
・吉川市農業委員  
としての活動報告  
  
・CNCP アワード2  
017 受賞報告
- **CSN のうごき**  
・8～10 月

## □ 秋に語る □

### 次世代へ

## 一足飛びに 学生に託そうではないか

副代表 宇佐 洋二

### 1. NPO 活動の 14 年間

2004 年埼玉県より  
認証を受け、この 10  
月に 14 年目に入ります。

人間でいえば中学校

だったそうです。

たぶん 14 年後の存  
続率は 2% 前後ではな  
いでしょうか。

そんな中よくこま  
で存続ができ、意義あ  
る活動ができたことは

3 年生（青春真っ盛り、夢と希望に胸膨らます年  
頃）ですが、我々のメンバーの平均年齢は男性の  
健康寿命をすでに越していると思われます。

日本経済新聞が 1996 年に新設法人 8 万社の  
行方を調査したところ、1 年後の存続率は：60%、  
3 年後：38%、5 年後：15%、10 年後：5%だ

制・再生可能エネルギー  
の利用・資源の循環利用  
を推進するために「バ  
イオマスタウン構想」  
「バイオマス産業都市」  
を自治体・市民と数多  
く取り組みました。



宇佐副代表

②「施設の維持更新」  
では、地方自治体のインフラ維持管理支援事業の  
提案が、CNCP アワード 2016 で最優秀賞を獲  
得しました。

③「防災関連分野」では防災投資促進技術の共  
同研究を大学・企業と、また BCP(事業継続計画)  
の作成支援事業・作成支援講座を自治体および地  
域企業とともに取り組んでまいりました。

④「大学等研究機関及び企業間の技術と情報の  
交流」では、「共創プラットホーム事業化研究会」  
を大学・企業とともに立ち上げ成果を得ました。

幸運だったと思われます。

### 2. 我々のミッション

ご存知の通り我々のミッションは、都市および  
生活環境<sup>①</sup>、施設の維持更新<sup>②</sup>および防災の関連分  
野<sup>③</sup>を主体に、市民や地域の視点に立って大学等  
研究機関および企業間の技術と情報の交流を支援  
④、あわせて市民や行政との協働事業を行うこと  
により、一層の相互理解と地域の活性化をはかる  
こと等を掲げ、結果および成果を残してきました。  
具体的には

- ①「都市および生活環境」では地球温暖化の抑

以上のように、一定の成果をあげることができました（詳細は2ページの年表参照）が、取り組みの件数は徐々に減少傾向にあります。

**3. 今後の方向性( 有限の時間をどのように使うか )**

現状の組織（高齢化）では、主体的に事業を起こすパワーや新規の分野を開拓することはあまり期待できません。

いままでの活動等で得られた研究成果や実績・経験を、何とか次の世代に継承して行きたいのですが、現状、次世代の入会も期待できない状況です。

いま現役で働いている方々は、企業を抜け出しでの活動はなかなか難しいのではないのでしょうか。

**4. 次世代に継がないものは、一足飛びに学生に託そうではないか？**

そこで、一足飛びに土木系の学生に託すこともあるのかな？と考えています。

具体的に我々ができそうなことを以下に列挙し

てみます。

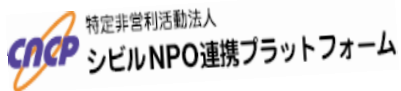
- ・「BCP」とか「バイオマス」といった新しい分野で、我々が取り組んだ知見等を教える
  - ・「IME 事業の取り組み」手法の伝授
  - ・大学と企業との共同研究のマッチング
  - ・学生と NPO との地域連携事業
  - ・インターンシップの紹介（仲介等）
  - ・ゼネコン各社の研究所見学会ツアー
  - ・ゼネコンの仕事（ダム・トンネル・橋梁） NPO 会員経験者による経験談
  - ・建設コンサルタントの仕事 NPO 会員経験者による経験談
  - ・特殊技術の紹介（NPO 会員）
  - ・技術士受験のポイントおよび心得
- まだまだ、いろいろあると思われます。各会員の経験等を活かし、埋没されるのはもったいない！若者に託すのも、我々の残されたミッションではないでしょうか？

**シビルサポートネットワーク活動年表**

	平成16～17年	平成18～19年	平成20～21年	平成22～23年	平成24～25年	平成26～27年	平成28～29年
都市および生活環境関連	H16年度環境政策提言 七尾港木皮処理についての検討受託	バイオマス部会発足 銚子市地球温暖化対策実行計画書作成 千葉中央地域畜産環境改善構想書作成業務受託 関東バイオマス発見事業茨城県セミナー講師 太田バイオマススタウン事業化計画作成業務受託	十日町市バイオマススタウン構想書策定業務受託 南魚沼市バイオマススタウン構想書策定業務受託 南房総市資源循環地域構想書策定業務受託 聖国青年会議所主催「環境経営セミナー」講師 富吹市バイオマススタウン事業化計画策定業務受託	富吹市バイオマスセンター建設事業基本計画策定業務 南房総市支援農産物栽培指針実証実験現地調査 富吹市バイオマスセンター建設事業アドバイザー業務	バイオマス活用ハンドブック 共同著書(日本有機資源協会) 香居町バイオマス資源利用調査業務 三菱総研「バイオマス利活用システム検討」における選定自治体に係る検討支援業務	十日町市バイオマス産業都市構想(案)策定支援業務 長野市バイオマス産業都市構想策定支援業務	院長大バイオマス発見事業提案書支援
施設の維持更新関連		橋の長寿命化促進化検討会初会合	橋梁保全研究会		建設系NPO連絡協議会「試行事業」に応募「橋の長寿命化促進事業支援プロジェクト」採択される		CNCPアワード2016で最優秀賞受賞「地方自治体のインフラの維持管理を支援する有限責任事業組合」
防災の関連		事業継続初級管理者試験に当NPOから辻川、倉山、小川の3氏が合格 BCP研究会終了	東埼玉テクノポリス協同組合主催のBCP普及事業支援 東埼玉テクノポリス協同組合のBCP作成指導講座スタート 東埼玉テクノポリス協同組合BCP作成指導講座終了 東埼玉テクノポリス協同組合のBCP作成指導講座スタート 熊谷流通センターBCP策定支援事業スタート BCP講師養成研究会発足	埼玉県南卸売地協同組合BCP講座開始 第1回BCPサロン開催 第2回BCPサロン開催 埼玉県南卸売地協同組合BCP講座にて講演 生き生きとBCPを講演 第3回BCPサロン開催 国土交通省事業継続力認定委員委嘱	徳島県の中小企業へBCPを指導 エイジックグループとBCP業務委託契約を締結 エイジックBCPアドバイザー業務スタート BCP策定済み企業より営業マン研修受託 建設系NPO連絡協議会の試行事業開始 埼玉県南卸売地「地域継続計画」勉強会開催	草加市手代町会地域継続計画(DCM)講演会 大宮南ロータリークラブ地域継続計画(DCM)講演	
大学等研究機関及び企業間の技術と情報の交流支援		セミナー「地震防災の財務影響分析」が開催 BCPIにおけるリスク対応の財務影響詳細に関する研究会の説明会開催				共創プラットフォーム事業化研究会スタート	共創プラットフォーム事業化研究会フェーズⅡスタート
地域との連携 その他イベント等	設立記念シンポジウム開催 埼玉県NPO協働提案推進事業応募 埼玉大学と市民との共同研究会テーマに応募	「吉川市とNPOのパートナーシップについて」提案 吉川市NPO連絡会発足シニア・アドバイザー第一回会合開催 第1回CSNサロン開催 第1回吉川市NPOフォーラムで地域初イベント 第2回シニア・アドバイザーミーティング開催 第2回CSNサロン開催 第3回シニア・アドバイザーミーティング開催 第3回CSNサロン開催 第4回シニアアドバイザーミーティング開催 平成19年度埼玉チャレンジサポート事業に応募 日本政策投資銀行から事業性調査委託	第4回CSNサロン開催 オープンセミナー開催 第6回推進委員会開催 第5回CSNサロン開催 第6回シニア・アドバイザーミーティング開催 辻川代表、吉川市に協働事業を提案 吉川市協働構想の提案を第3回よしかわNPOフォーラムにて発表 辻川代表が吉川市の市民参画協議会の会長に就任 行政を対象に「出前研修」事業を企画 第2回オープンセミナー開催 出前研修の第1号を吉川市で実施 吉川市にて新型インフルエンザ対応BCP講演 第7回推進委員会開催 第7回CSNサロン開催 第4回吉川市NPOフォーラム開催 第2回シビルNPOフォーラム開催 第7回シニア・アドバイザーミーティング開催 シビルNPO連絡会への参加 土木学会小委員会およびシビルNPO連絡会に参加	第8回CSNサロン開催 第5回オープンセミナー開催 第9回推進委員会開催 第9回CSNサロン開催 第8回シニア・アドバイザーミーティング開催 第10回CSNサロン開催 第4回オープンセミナー開催 第9回ふしかわNPOフォーラム開催 第9回推進委員会開催 第11回CSNサロン開催 第9回シニア・アドバイザーミーティング開催 吉川市へ「未来を切り拓く農業への提案」 吉川市NPOフォーラムにて「吉川市の未来を拓く農業へ提案」パネル展示	CSN第1回役員懇話会開催 第12回CSNサロン開催 第5回オープンセミナー開催 第10回推進委員会開催 第13回CSNサロン開催 第10回シニア・アドバイザーミーティング開催 CSN第2回役員懇話会開催 建設系NPO連絡協議会発足一事業試行分科会長に代表が就任 島村クリニックへのCSNからのIT導入の提案 第14回CSNサロン開催 第15回CSNサロン開催 第16回CSNサロン開催 季刊誌1号(春号)発行 季刊誌2号(夏号)発行 季刊誌3号(秋号)発行	第17回CSNサロン開催 シビルNPO連携プラットフォーム創設(CSN推進正会員登録) CSN創立10周年記念セミナー開催 季刊誌(冬号)発行 季刊誌(春号)発行 季刊誌(夏号)発行 季刊誌(秋号)発行 第18回CSNサロン開催 季刊誌(冬号)発行 季刊誌(春号)発行 季刊誌(夏号)発行 季刊誌(秋号)発行 第19回CSNサロン開催 季刊誌(冬号)発行 季刊誌(春号)発行 季刊誌(夏号)発行 季刊誌(秋号)発行 第20回CSNサロン開催 季刊誌(冬号)発行 季刊誌(春号)発行 季刊誌(夏号)発行 季刊誌(秋号)発行	第21回CSNサロン開催 第22回CSNサロン開催 第23回CSNサロン開催 中川を活かしたまちづくり構想の提案(吉川市) 辻川代表が吉川市の農業委員に就任 CNCPアワード2016で最優秀賞受賞 季刊誌(冬号)発行 季刊誌(春号)発行 季刊誌(夏号)発行 季刊誌(秋号)発行

## □ 事業報告 □

### シビル NPO 連携プラットフォームの活動報告



## 建設系 NPO の中間支援組織は、いま・・・

「シビル NPO 連携プラットフォーム (CNCP)」は、土木学会 100 周年事業の一環として、平成 26 年 8 月に NPO 法人として設立されたものです。設立準備段階から CSN の辻田代表が参加し、設立後 CSN は法人正会員登録をして、CSN の事業活動の一貫として活動しております。

CNCP の設立趣旨は、従来から産学官の枠組みの中で、社会資本整備に尽力してきた建設界でも、その構造が多様化し、震災時の“いわゆる民”によるボランティア活動の台頭さらに高齢化によるシニアエンジニアの活用策など新たな対応が進んで

います。土木学会の 100 周年事業の 4 部門 (社会安全、国際、社会貢献、市民交流) のように、半数が社会・市民への働きかけを意識したものとなっています。しかしながら、建設界の“いわゆる民”の組織、とくに NPO 法人は、数は多いけれど中小零細で、その強化のために中間支援組織の必要性が認識され、CNCP 設立に繋がったものです。

現在 3 期目に入っていますが、事業化推進部門、地域活動推進部門、サービス提供部門の 3 部門の連携により様々な活動を展開中です。

とくに、依然として社会で顕在化していない建設界の社会貢献・市民交流については、土木学会の委員会活動と相まって、一段強化すべく努力中です。当 NPO は 3 部門のうち事業化推進部門を担っております。

#### ◇ 建設界の社会貢献活動の顕在化として

- 1) 学会教育企画・人材育成委員会・シビル NPO 推進小委員会との連携事業  
学術事業をベースに建設界の社会貢献・市民交流活動のフォーラム等広報への取り組みへと発展させる。
- 2) インフラ国民会議「市民参画フォーラム」チームをリード。
- 3) CNCP アワードを次年度からソーシャルビジネス部門+企業の共通価値の創造 (CSV) 事業に再整備し、学会のフォーラムと連動に向けて取り組む。

#### ◇ 主な事業として

- 1) 事業化推進部門 (CSN が担当)
  - (1) シンクタンクチーム

- ① 南房総 CCRC 事業研究会
- ② うなぎ完全養殖インフラ整備研究会
- ③ 明治 150 年企画ワーキング

- (2) シビルマッチ事業 (クラウドソーシング事業)
- (3) CNCP アワード事業 (次年度は「市民社会を築く建設大賞」と改称)

#### 2) 地域活動推進部門

- (1) インフラメンテ国民会議での積極的な活動  
「市民参画フォーラム」チームをリード
- (2) 建設界の社会貢献を世にアピールする活動  
学会小委員会に「社会貢献・市民交流WG」を設置

#### 3) サービス提供部門

- (1) 会員の増強とサポーター登録制度の推進
- (2) シビル NPO 活動資金調達 (NPO ファイナンス) 手法の研究
- (3) CNCP 通信の継続発信とその内容のアーカイブ化
- (4) 自治体インフラメンテナンス研究での協働
- (5) 協働コーディネーター養成講座の開催



## □ 活動報告 □



## 補強土壁を活用した全天候型の作業空間から 「山里・田園・津々浦々」で持続的成長可能な産業構造 を創出しよう

講師 太田 秀樹氏

日時 2017年10月16日 15時～17時  
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
講演 「補強土壁の多目的利用」  
講師 中央大学研究開発機構教授  
太田 秀樹氏

第26回サロンは、元地盤工学会長太田秀樹先生にご講演いただいた。

今回のご講演のきっかけは、3月の第24回サロン「坂川逆流の謎に迫る」のことを伊藤会員から聞いて関心をもたれた先生を、5月に現地ご案内したことに始まる。そのときにうかがった先生のお話は、

じつにおもしろくかつ貴重な内容であった。

CSN 会員にもぜひ聞いてもらいたく、あらためてサロンでの講演をお願いした次第である。

テーマこそ、「補強土壁の多目的利用」と一見地味であるが、じつはこれが、途方もなく奥の深い提案である。

それは、「補強土壁を建築における壁や柱の代わりに使うことにより、オフィス



や工場・農業用ハウスと同等の機能をもつ全天候型の作業空間を、きわめて安価に提供したい。」というものだ。

補強土壁とは、締固め土の中に補強材を埋設した壁状の構造物で、耐震性がきわめて優れているが、重いうえ広く場所をとるのが欠点だそうだ。

補強土壁が、大きな敷地面積を必要とするということを逆手にとって、地価が極端に安い場所、つまり休耕地や耕作放棄地などの中山間地域における遊休地を半地下式全天候野外作業場に改変して、快適・安全・廉価な生産拠点を作ろうというアイデアである。

建設コストは、都市部に比べ土地代も含めてきわめて安価になるという。

こうして、補強土壁を活用した半地下式全天候

屋外作業空間あるいは地下水熱利用農場は、生産体制を、大都市集中型から「山里・田園・津々浦々」の地方分散構造の創出、というネライに繋がっていくと教授は述べられた。

これこそ、建設系 NPO の王道をいくようなテーマである。

補強土壁の利用という、このちょっとした仕掛けが、社会全体の課題解決に波及していく壮大な流れに、受講者一同、深い感銘を覚えた。



## □ トピックス □

吉川市農業委員  
としての活動報告

## 「吉川市の農業の見える化」を

吉川市農業委員 辻田満

## 1. はじめに

わたしは、昨年度4月から公募委員としての立場で農業委員の活動を開始しました。

平成27年9月に「農業委員会等に関する法律の一部改正法」等が公布されて「農地利用の最適化の推進」が必須業務となりました。

それに加えて、農業委員に中立公平な立場の利害関係のない者を1名以上含めること定められました。

そのような経緯の中で、わたしは農業問題は吉川市全体のまちづくりの根幹の最重課題である、との認識をもって臨みました。

さらに、これからの農業問題への取り組みは産業界のみならず市民参加が求められてくるでしょう。

## 3. 吉川市の農業問題の取り組みの糸口

農業従事者の高齢化の問題、後継者不足等が大きな問題です。

この問題は既に全国共通の問題であり、本市においても待ったなしの状況にきていると感じます。

この問題を市全体の問題として捉えて行くには、まずは「吉川の農業の見える化」の取り組みが不可欠と考えます。

農業委員としてこの1年半の間、月1度の定例会議に加えて年に数回の研修会、耕作放棄地の一斉パトロール、農地調査会等の活動をしてきました。農業問題の一般論はそれなりに学習し吉川市の農業に関する基本的な実情は知識として把握できましたが、今後の吉川市の農業課題をどの様な切り口で何時までに取り組みで行くべきか、未だ

## 2. 農業関係者以外からの視点の必要性

これまでの活動で、日本の農業が抱える課題が見えてきました。

しかし、それら課題の多くは吉川市の独自の視点に立った解決が求められています。例えば「農業の6次産業化」なる動きがある中で1次産業である農業が6次産業化に取り組むということは、加工・流通販売といった2次産業と3次産業の一体化経営が求められます。

吉川市の農業が「6次産業化」に取り組むには、農業生産者だけではなく農業関係者以外からの英知を集めて取り組んで行かなければなりません。

見えておりません。

まずは吉川市民の誰が見ても明らかに吉川市の農業の実情が見える状態にして初めて、農業関係者以外からのアイデアやビジネスモデル等の提案が生まれてくるのではないのでしょうか。

## 4. 「吉川市の農業の見える化」の必要性

「吉川市の農業の見える化」をするにあたって何が見えるかすべきかの検討が必要です。

例えば、寄居町では、ITタブレットを使った農地パトロールで効率化を図っています。わたしも毎月農地パトロールをしていて、農地に駐車場や資材置き場が散見されても、農地台帳を閲覧しない限りその時点でその農地転用は違法か否かの判断は出来ません。

これがIT技術を使えば即座に判定が可能となります。

また、昨今のIT技術を使えば、寄居町の事例に留まらずかなりの「吉川市の農業の見える化」が出来るはずで、基本データとしては、5年毎

に調査されている農林業センサス・全国農地ナビや農地台帳等のデータベースがあります。

また、本市の農業が魅力ある産業として発展していくためには、農業の経営・生産・販売の3つの見える化をはかことも必要です。

「農地利用の最適化の推進」にあたっては①遊休農地の解消②担い手への農地利用集積③新規参入の促進の今後の数値目標を達成して行くためのツールとして、まずは「吉川市の農業の見える化」の取り組みが必要ではないでしょうか。

## 5. 吉川市の農地利用の将来ビジョンを

毎月の農業委員会の定例会では農地の転用申請（宅地、駐車場、資材置き場など）が10数件出されます。

立地基準に照らして申請内容が整っていれば、全て承認されています。

これでは、年に100件、10年で千件規模の農地転用がされ、本市の都市型農地が失われていきます。

少なくとも今後は、本市の農地利用のビジョンを「吉川市の農業の見える化」によって示し、農地利用の最適化の推進が必要と考えます。

## 6. おわりに

「吉川市の農業の見える化」の効用は多々期待するものがありますが、中でもたとえ少人数でも吉川市の青年が、吉川市の農業に関心を持って参画してくれることを大いに期待するものです。

年	総数 (人)	年代別構成比（イメージ）					
		30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳代	70歳以上
1995 平成7年	1,579						
2000 平成12年	1,437						
2005 平成17年	1,263						
2010 平成22年	1,018						
2015 平成27年	802						

15歳代  
20歳代

## CNCP アワード2017

シビル NPO 連携プラットフォーム（CNCP）が主催している、建設分野において優れたソーシャルビジネスを展開している事業を称賛し広く周知させる CNCP アワードで、わが CSN の平野特別会員の「既存貯水水槽の耐震性能向上のための制振装置の開発」が、今年度のベスト・プラクティス部門優秀賞に決まった。

受賞式典は、10月3日土木学会講堂でおこなわれ、辻田代表をはじめ CSN メンバーが見守るなか、山本代表理事より賞状をいただいた。

本テーマについては、昨年7月の第22回サロンでご講演いただいたところだが、施工実績は現在80件を超えるとのことで、世間に認知され始めていることがうかがえた。

私事で恐縮だが、筆者の居住するマンションの

## 平野特別会員

## ベスト・プラクティス部門優秀賞受賞

地下貯水槽（ステンレス製）の地震対策では、スロッシングやバルジング現象による亀裂や破損対策はされていない。平野先生のこの「波動抑制装置」の必要性を説明しても、ほとんどわかってもらえないのが現状である。受賞事例を使って、すこしでも理解をすすめたいと思った。

本アワードでは、昨年ベスト・アイデア部門で最優秀賞をいただいた。

両部門での連続受賞はたいへん名誉なことであり、会員みんな喜びをわかちあいたい。



平野先生

（向かって  
右から2人  
目）

## CSN のうごき

行事・イベント	実施日	参加者
事務局定例会議	8/7、9/6、10/2	辻田、宇佐、高橋
シビルNPO 連携プラットフォーム運営会議	8/8、9/12、10/10	辻田
CNCP アワード 2017 授賞式およびプレゼン	10/3	平野、辻田、宇佐、高橋、舌間、鈴木、和久、服部、山田、坂本
CNCP 総会	10/3	辻田
第 26 回 CSN サロン	10/16	9 名
CSN 役員懇談会	10/16	辻田、宇佐、高橋、舌間、鈴木、和久、小川
活動報告季刊誌第 19 号発行	10/30	

## 編集後記

- ◇ 辻田代表の「吉川市農業委員としての活動報告」に、農業従事者の高齢化の問題、後継者不足が大きな問題とあった。吉川市の農業就労者数は、この 20 年間で半減している。実人員が 800 人そこそこというのも驚きである。  
そのうち 60 歳以上の割合は、20 年前は 60%だったが（これでもじゅうぶんが高いが）、いまは 80%を超えている。これが、東京近郊の現実なのだ。
- ◇ 総選挙のまっただなか、秋田県大館市に住む旧友から電話があった。かれの集落は、あと 15 年で消滅するという。なのに、地元の立候補者たちに対策はなくて情けないと…
- ◇ 活動報告に記載の、遊休地を半地下式全天候野外作業場に変える太田先生のアイデアは、農業においても良好な作業環境を整えられるので、高齢の農業生産者でも（もちろん、都会から来た人でも）農作業を続けることが可能になるという。
- ◇ はからずも本号に、わが国農業の厳しい現実を伝える記事と、地盤工学の先端技術を社会的課題（とくに農業）解決に役立てたいという記事が載った。
- ◇ 方策はあるのだ、なんとか一石を投じられないものだろうか。

（事務局：高橋 肇）